



# 祐介の目

No.105

大田祐介 (福山市議会議員)

て、ガウンのデザイン、原料調達、製造、寄付の受け付け、介護現場の実態調査等を経て、福山市内の介護現場に広島県産のガウンを寄贈し、訪問看護師らが感染防御対策に不慣れな介護士に

## 「ガウン 福山」検索

新型コロナウイルス感染拡大防止策として徐々に明るいニュースがあった。感染防御用具として不足している医療・介護用ガウンを広島県内で生産し、不足している施設に届けようというクラウドファンディングが始まった。

4月初旬、三次市の介護事業所で新型コロナウイルスのクラスターが発生した。高齢者の介護に尽力している介護士が新型コロナウイルスに感染し、結果的に感染を伝播してしまった。その結果、あっという間に地域の医療資源が枯渇した。要介護高齢者は様々な病気を抱え、感染による重症化リスクが高い。医療崩壊を防ぐには、介護現場におけるクラスター発生を抑えることが非常に重要なのだ。

クラウドファンディングの具体は、社会医療法人祥和会、NPO法人えがおのまちづくりステッキ、福山青年会議所、福山市介護保険課等が協力し

着脱等の指導も行うというものだ。脱ぎやすさを重視し、ガウンの色はばらのまち福山らしく、ピンクにした。ローズマインドの精神も縫い込んであると言えよう。

このクラウドファンディングの特徴は、福山市内唯一の認定NPO法人「福山シンフォニーオーケストラ」が寄付の窓口になることにより、確定申告をすれば寄付金控除の対象となり、最大4割が手元に戻ってくる。NPOの松岡理事長は産婦人科医であり、この試みにより福山に寄付の文化を根付くことを期待されている。地域を挙げて日々リスクを背負いながら新型コロナウイルス対策に向き合っている医療・介護の現場を守る。市民一人一人がプロジェクトを支える「オール福山」の取り組みとして既に様々なメディアからも注目されている。私もこの大変な難局において副議長に就任したが、早速このような取り組みを支援することができ嬉しく思う。